

大須賀一雄 武蔵野スケッチ物語

見慣れた風景も、絵になるとちょっと違う趣が出てきます。

そんな武蔵野の風景を、大須賀一雄さんが春夏秋冬で切り取って描きます。

no.66



今回の作品は、吉祥寺南町の道路沿いで、北を向いて描いたものである。

写生後の楽しみは、コーヒータイムを持つことである。家では、毎日のように専用マシンでブレンドコーヒーを飲んでいるが、最近、喫茶店などではマンデリンを飲むことが多い。これまで、いろいろなコーヒーを飲んでみたが、いつの日か、幻のコーヒーといわれる「コピ・ルアク」を味わってみたいと思う。

ところで、「銀ブラ」という言葉の意味をご存じだろうか。本来の意味は、「銀座でブラジルコーヒーを飲む」ということだが、違って解釈されている人が多いようである。明治四十四年に、銀座で開業したカフェーパウリスタでコーヒーを飲むことから生まれた言葉と聞く。

最後に、コーヒーに関するクイズを紹介したい。「ブルータスの好きなコーヒーは？」答えは、「ブルータス、お前もか」から、「モカコーヒー」である。

(絵と文・大須賀一雄)

Profile

大須賀一雄
(おおすか かずお)

水彩画家。1937年群馬県出身。武蔵野市在住。画材は透明水彩。元JR東日本国際課勤務。JR東日本絵画クラブ初代事務局長。これまでJR東日本の駅の絵を1000点以上描き、新聞、雑誌、テレビなどでも紹介されている。著書は『あなたの街の駅物語』（日貿出版社）、『スケッチお手本帖』（素朴社）、『透明水彩の世界・ヨーロッパ』および『緑』（旅もようスケッチ会）ほか。現在、JR東日本の大人の休日倶楽部のカレンダーの絵を担当。海外スケッチ旅行歴も長く、これまで50カ国以上を訪れ、個展も30回を超える。